

29年5月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 5月1日～ 29年5月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/5月	6月	7月
伐採動向	スギ	16.7	0.0	16.7
	ヒノキ	16.7	33.3	16.7
	カラマツ	16.7	16.7	0.0
	エゾ・トド	33.3	50.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	16.7	0.0	16.7
	ヒノキ	16.7	33.3	△ 25.0
	カラマツ	16.7	37.5	0.0
	エゾ・トド	0.0	50.0	50.0
手持立木在庫動向	スギ	16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	16.7	16.7	0.0
	エゾ・トド	△ 16.7	16.7	16.7

・スギの伐採動向は、5月は増加、6月横ばい、7月は再び増加に。ヒノキは3カ月連続で増加。カラマツは5月、6月の増加が7月は横ばいに。トド・エゾは3カ月連続で増加。

・スギの出荷・販売動向は、5月は増加、6月横ばい、7月は再び増加に。ヒノキは5月、6月の増加が7月は減少に。カラマツは5月、6月の増加が7月は横ばいに。エゾ・トドは5月の横ばいから6月、7月は増加に。

・スギの手持立木の在庫動向は、5月の増加が6月、7月は横ばいに。ヒノキは5月の減少が6月、7月は横ばいに。カラマツは5月、6月の増加が7月は横ばいに。エゾ・トドは5月の減少が6月、7月は増加に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・融雪も進み伐採条件も良くなってきたので、伐採動向はやや増加。5月はトドマツ主伐、6月以降はトドマツ間伐の予定（北海道）。
- ・伐採動向は、国有林の請負事業を受注したことにより、5月からエゾ・トドの伐採作業を開始。出材は調整していない（北海道）。
- ・立木の伐採動向はスギは控えめ、カラマツは積極的に実施（東北）。
- ・植付等の造林事業が増えるので伐採は減少（東北）。

(出材・販売動向)

- ・融雪期の林道通行止めが解除になる6月より販売が増加する予定だが、運材業者のトラックが少ないので、トラックを確保できると販売量が増加する（北海道）。
- ・出材・販売は、スギは控えめ、カラマツは引合が多いのでやや増加（東北）。

(手持立木在庫)

- ・手持立木在庫は伐採により減少している。6月から当地区の国有林の立木公売があるので応札する予定（北海道）。
- ・立木はスギの買入れは横ばい、カラマツは積極的にやや増加（東北）。
- ・昨年、国有林から購入した物件の伐採時期を検討中（東北）。
- ・スギの主伐を実施。カラマツはほとんどなし（中国）。